

令和2年度 学校自己評価計画

石川県立金沢西高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実 現 状 況 の 達 成 度 判 断 基 準	判 定 基 準	備 考
1	ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め生徒の主体的な学びおよび確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。	教務課	生徒による授業評価アンケートでの肯定的評価は81％であった。ICTを活用しやすい環境の中で、教師・生徒が共に発表や学びあうといった授業改善が進んでいる。	【満足度指標】 全ての教員がICTを効果的に活用した授業を実践し、研究授業や相互参観授業に取り組み、肯定的評価をさらに向上させたい。	ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が A 80％以上 B 75％以上 C 70％以上 D 70％未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
			生徒による授業評価アンケートでの肯定的評価は78％であった。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により、生徒が達成感を味わえるように授業改善を行っている。	【努力指標】 学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するように主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。	授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が A 85％以上 B 80％以上 C 75％以上 D 75％未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による授業評価アンケートで評価
		進路指導課	2年続けて肯定的評価が90％以上と高い評価であったが、これに満足せず、さらに充実した内容となるよう改善を加えていく。昨年度は、90.6％。	【満足度指標】 プロジェクトに対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組んだとする肯定的評価を維持する。	生徒によるアンケートで「主体的・探究的・対話的に活動に取り組んだ」とする肯定的評価が A 95％以上 B 90％以上 C 85％以上 D 85％未満	C・Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の振り返りの時間に、1、2年生対象のアンケートを実施して評価 (昨年度は1年生のみ)
		教務課 各学年	生徒による学習時間量調査の結果より、目標達成生徒の割合は16％であった。	【努力指標】 目標とする家庭学習時間を「学年＋1時間」に設定し、達成する生徒の割合を40％以上にする。	家庭学習時間が「学年＋1時間」に達している生徒の割合が A 40％以上 B 30％以上 C 20％以上 D 20％未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	家庭学習時間量調査で評価
		進路指導課 1・2学年	昨年度の1月校外模試3教科型偏差値が52以上の生徒は、1年生は101名(32％)、2年生は93名(29％)であった。	【成果指標】 1・2年1月の校外模試で3教科型偏差値が、52以上の生徒の割合が、35％以上を目指す。	1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の割合が A 35％以上 B 30％以上 C 25％以上 D 25％未満 ※1・2年別に達成度を判断する	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	当該模試の結果で評価
		進路指導課 3学年	昨年度3年生は10月記述模試偏差値50以上が44名(14％)、11月マーク模試偏差値52以上が23名(7％)であった。現3年生は、2年1月記述50以上が110名(34％)、2月マーク52以上が83名(26％)であった。	【成果指標】 3年校外記述模試において、偏差値50以上及びマーク模試偏差値52以上の生徒の割合が30％以上を目指す。	10月の校外記述模試偏差値50以上が A 30％以上 B 20％以上 C 15％以上 D 15％未満 11月のマーク模試総合偏差値52以上が A 30％以上 B 20％以上 C 10％以上 D 10％未満		
		進路指導課	昨年度の合格者数は、難関国立大学と金沢大学5名、北信越地区の国立大学28名、北信越地区の公立大学42名であった。	【成果指標】 右の①～③の評価項目のうち3項目以上をクリアすることを目指す。	①難関国立大学、金沢大学に5人以上合格 ②北信越地区の国立大学に20人以上合格 ③北信越地区の公立大学に30人以上合格 A 3項目クリア B 2項目クリア C 1項目クリア D クリアなし	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
2	組織的な生徒指導を通して、規範意識を高め、将来の主権者としての自覚を促し自立した社会人たる判断力・行動力を養う。	生徒課	登校時の挨拶指導の中で進んで声を発して伝えてくれる生徒の数が昨年は減少したと感じている。生徒の立場では挨拶について自己評価が甘いが行っているつものの生徒が多くみられ改善が必要である。昨年度は、80％。	【成果指標】 自ら相手に対し、挨拶を発することができたかどうかに焦点をあてた生徒アンケートから評価する。	学期末ごとの生徒アンケートから、いろんな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが、 A 90％ 以上 B 85％ 以上 C 80％ 以上 D 80％ 未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		生徒課	昨年度の交通違反件数は計15件と一昨年の35件から大幅に減少した。15件という数値は約900名自転車通学を実施している高校としては県内上位に当たる少なさである。今年度も継続指導を実施したい。	【成果指標】 県教委からの自転車乗車違反指導件数から評価する。	自転車乗車違反件数が、年度末累計で A 20件 未満 B 20件 以上 C 30件 以上 D 40件 以上	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
		生徒課	昨年度のアンケート結果は、86％で、いじめに関して認知することはなかった。一人一人の生徒が居心地の良い学校環境と言える居場所づくりを更なる教職員の連携で実践していきたい。	【成果指標】 互いを尊重できる居心地の良い学校かどうか、学期末アンケートから評価する。	互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケート集計で、肯定的評価が A 90％以上 B 80％以上 C 70％以上 D 70％未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による学校評価アンケート

		④	自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。	保健相談課 各学年	健康診断の結果、各検診の要受診者の受診率が低く、自らの健康課題に関する意識も低い傾向が見られる。昨年度の歯科の受診率は、20.4%だった。	【成果指標】 健康診断を主体的に受けさせることで受診率の向上を図る。特に低い歯科の受診率を前年度以上とする。	歯科の受診率が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
3	文武両道の実践のもと、部活動の更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。	①	運動部・文化部ともに活動内容の充実と挨拶などの規範意識の醸成を図りながら充実感、達成感を高める。	生徒課	昨年度は例年に比べ退部者人数は減少したが、部活動の意義と継続する大切さを教師側がしっかりと生徒に伝え続ける姿勢が必要である。規範意識の挨拶については、しっかりできる部とそうでない部が二極化している。	【成果指標】 部活動加入者に、生徒アンケートを行う。	充実感や達成感が感じられる部活動が行えているかの肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	生徒による学校評価アンケート 昨年度は、部活動の加入率を指標としていた。
		②	運動部・文化部ともに計画的かつ効率のよい練習を行い、好成績につなげる。	生徒課	県高校総体総合成績は、一昨年の21位から昨年度の20位へと僅かに前進した。運動部で上位の成績を残すことは年々厳しい状況だが、特に女子の健闘があった。また、文化部では、近年、生徒の要望で同好会が結成されるなど、主体的な活動が見られる。学校の活性化のためにも生徒の主体的な活動を支援していきたい。	【成果指標】 部活動の練習内容の充実（科学的トレーニングの導入、効率化、自主性）によって前年度以上の成果を目指す。運動部については、県高校総体総合成績の順位によって評価する。文化部については、各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。	(運動部) 県高校総体総合成績が A 10位以内 B 20位以内 C 30位以内 D 31位以下 (文化部) 各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が A 20枚以上 B 15枚以上 C 10枚以上 D 10枚未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
4	ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者、地域との連携を密にし、信頼される学校づくりを行う。	①	学校教育活動について、ホームページやメール配信、学年通信等による積極的な配信に努め、保護者や地域の方の一層の理解・協力を得る。	教務課 総務課 各学年	保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は85%であった。	【満足度指標】 学校の情報提供による満足度を80%以上にする。	学校の情報提供は十分に行われているという保護者が A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 75%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	保護者による学校評価アンケートで評価
					昨年度、PTA総会・教育ウィーク時の保護者の来校者数はのべ726名であった。	【努力指標】 教育ウィーク時の保護者の来校者数を増やす。また、進路説明会などの来校者数も増やしていきたい。	PTA総会、教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数 A 800名以上 B 600名以上 C 400名以上 D 400名未満	Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価 今年度はPTA総会を実施できないので判断基準を各200名下げた。
		②	各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。	総務課	昨年度12月末までの図書館の貸出冊数は、生徒1人当たり1.5冊であった。	【努力指標】 生徒の読書活動を促進する。	生徒1人あたりの図書館の貸出冊数が生徒1人あたり年度末までで A 4冊以上 B 3冊以上 C 2冊以上 D 2冊未満	Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価 昨年度は12月末までで集計した。
		③	節電・節水、ゴミの分別や紙の3Rs活動を通して、環境保全活動への意識関心を高める。	保健相談課	環境委員会活動を通して、環境に対する生徒の意識を高めてきたが、環境保全活動に対する意識が薄い。『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』の実践が回収率は64.2%であった。	【成果指標】 生徒のエコ活動を推進し、環境に対する意識を高める。『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、前年度以上の回収率を目指す。	『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、その回収率が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。	年度末の実績で評価
5	「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、業務改善に向けた学校マネジメントを推進するために具体的な取組を行う。	①	ワークライフバランスの意識を向上させ、校務の効率化に向けて具体的な取組を実践する。	教頭	昨年度の職員へのアンケート結果では、肯定的評価は64.5%であった。今年度も引き続き、業務の質的向上とワークライフバランスに繋がる業務改善に取り組む必要がある。	【努力指標】 具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合を増加させる。	具体的な取組を実践し、時間外勤務の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	C、Dの場合、評価結果を分析し方策を検討する。	職員へのアンケートおよび勤務時間調査で評価